

週間天気予報の検証結果の見方

【週間天気予報】

週間天気予報は、毎日昼（11時）、夕方（17時）に全国の各气象台から発表されています。

【発表する内容】

- ① 3日目～7日目の天気、降水確率
- ② 2日目～7日目の最高気温、最低気温
- ③ 予想の確からしさ（Aランク～Cランク）

【予報検証結果の掲載内容】

気象庁では、これら発表された予報と実況を比較して、予報精度の検証を毎月行っています。「予報精度検証」のページにこの検証結果を次の通り掲載しています。

- ① 降水の有り・無しを示す「降水の有無」の適中率*等（毎日及び期間平均値）
- ② 最高・最低気温の予報誤差*（毎日及び期間平均値）

を図及び表で示しています。

なお、期間平均値は、①の「降水の有無」の適中率が3～7日平均値、②の最高・最低気温の予報誤差が2～7日平均値となっています。

*適中率、予報誤差等の説明は、当ホームページ内の「検証方法の説明」をご覧ください。

【図表の見方】

検証結果の見方として、「降水の有無」の適中率は数字が大きいほど良く、逆に最高（最低）気温の予報誤差はその値が小さいほど良いことを示します。

各グラフは、昼発表の予報についての「降水の有無」の適中率と最高・最低気温の予報誤差について、1992年から現在までの月毎の結果（期間平均）を示しています（全国平均及び各地方の結果）。月毎のグラフは大きく季節変化**していますので、長期的な傾向をみるために12か月移動平均を施したグラフを併せて図示しています。全国平均のグラフをみますと、梅雨期から夏季にかけて適中率が低下するといった季節変化はあるものの、2019年から2021年までの最近3年間を平均した「降水の有無」の適中率は約76%、「降水あり」予報の適中率は約70%、「降水なし」予報の適中率は約78%となっています。また、最高気温の予報誤差は冬季に誤差が小さくなるという季節変化がありますが、最近3年間を平均した予報誤差は約2.2℃となっています。最低気温の予報誤差も季節変化をしますが、平均的には約1.8℃です。

最新月の各種検証結果は、表で掲載しています。表中の語句等については、「検証方法の

説明」をご覧ください。

**季節変化の詳しい解説は、当ホームページ内の「天気予報の精度の例年値とその特徴」をご覧ください。